

# コナジラミ類情報第1号（トマト）

令和4年10月3日  
愛知県農業総合試験場  
環境基盤研究部病害虫防除室

**一部ほ場で多発しています。発生状況に注意し、防除しましょう。**

## 1 発生状況及び今後の発生予測

9月下旬に行った巡回調査（12 ほ場調査）において、コナジラミ成虫の寄生枝率が8.4%（平年2.7%、前年10.6%）で過去10年と比較して2番目に高い状況です。発生ほ場率は33.3%（平年31.9%、前年28.6%）で、過去10年と比較して6番目と平年並です。

名古屋地方気象台9月29日発表の1か月予報によれば、向こう1か月の気温は高いと見込まれており、本種の発生に好適な状況が続く可能性があります。ほ場での発生状況に注意しましょう。

## 2 防除対策

- （1）施設内への侵入を防ぐため、開口部に防虫ネット（目合い0.4mm以下）を展張しましょう。設置してあるハウスについても、被覆ビニルや防虫ネットに破損や隙間が無いか点検し、必要に応じて補修しましょう。
- （2）黄色粘着板や黄色粘着テープを施設内や周辺部に設置し、成虫を捕殺しましょう。
- （3）表を参考に薬剤防除を徹底しましょう。薬剤抵抗性の発達を防ぐため、IRACコードが同じ薬剤を連続して使用することは避けましょう。また、薬剤抵抗性の発生リスクが低い気門封鎖剤等も活用しましょう。
- （4）花粉交配用昆虫を利用する場合は、影響日数に注意して農薬を選定しましょう。
- （5）タバココナジラミ（図1）はトマト黄化葉巻病（図2）の病原ウイルスを、コナジラミ類はトマト黄化病の病原ウイルスを媒介します。ウイルスの感染株は見つけ次第抜き取り、適切に処分しましょう。
- （6）トマト黄化葉巻病については、耐病性品種であっても感染源となり得るため、感受性品種と同様にコナジラミ類の防除を行いましょう。



図1 タバココナジラミ（左：幼虫、右：成虫）



図2 トマト黄化葉巻病の発病株

表 トマトにおけるコナジラミ類の主な防除薬剤

農薬名	使用時期	使用回数	IRAC コード
ベストガード水溶剤	収穫前日まで	3回以内	4A
モスピラン顆粒水溶剤*	収穫前日まで	3回以内	4A
アグリメック	収穫前日まで	3回以内	6
アニキ乳剤*	収穫前日まで	3回以内	6
コルト顆粒水和剤	収穫前日まで	3回以内	9B
アプロードエースフロアブル	収穫前日まで	3回以内	21A, 16
ベネビアOD*	収穫前日まで	3回以内	28
トランスフォームフロアブル*	収穫前日まで	2回以内	4C
ディアナSC*	収穫前日まで	2回以内	5
グレーシア乳剤*	収穫前日まで	2回以内	30
サフオイル乳剤	収穫前日まで	—	未（気門封鎖）
サンクリスタル乳剤	収穫前日まで	—	未（気門封鎖）
ベミデタッチ	収穫前日まで	—	UNE*（成虫忌避）

※成虫に対して感受性が低下している事例があるため注意すること。

IRAC コードは殺虫剤の作用機構による分類を示す。

IRAC コードの詳細は、[https://www.jcpa.or.jp/assets/file/labo/mechanism/2022/mechanism\\_irac02.pdf](https://www.jcpa.or.jp/assets/file/labo/mechanism/2022/mechanism_irac02.pdf)を参照する。

農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努めましょう。

気門封鎖剤は、散布液がコナジラミ類に直接かかると効果がないため、丁寧に散布しましょう。ベミデタッチは、殺虫効果はなく忌避効果が主体です。7日間隔で複数回散布する必要があります。